

**授業概要**

21世紀、「日本が東アジアの経済をリードしていく」為、アジア経済の最重要課題は何かを講義する。グローバルゼーションの中に身を置き、対外貿易と直接投資に大きく門戸を開きながら発展を続けてきた地域がアジアである。世界に193か国があり、アジア地域の48か国・地域は、世界経済のけん引役である。

このアジア地域で名目GDP1兆ドル以上の国は、中国、日本、インド、韓国の4か国であり、この4か国でアジア全体の8割以上を占めている。

授業では、アジアのこの4か国に視点を置き、そこから日本のあり方を考える。そして、アジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）、東南アジア（タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）、ベトナム、ミャンマー、南アジアの経済・地理・文化・歴史的内容を多層的に理解し、日本とアジア諸国の経済一体化の進展について、その基礎知識を学ぶ。

**授業計画**

第1回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第2回	韓国経済の歴史と現状について講義する。
第3回	台湾の受託製造と中国との関係について講義する。
第4回	香港の歴史と現状について講義する。
第5回	シンガポールの経済成長と今後について講義する。
第6回	タイの経済発展戦略について講義する。
第7回	マレーシアの多民族社会とイスラーム金融について講義する。
第8回	インドネシアの経済成長と社会体制について講義する。
第9回	フィリピンの経済成長の可能性について講義する。
第10回	東南アジアにおける華人経済の役割について講義する。
第11回	中国・中国型資本主義の模索について講義する。
第12回	北の大地・ベトナムの経済成長について講義する。
第13回	ミャンマーの市場経済と社会について講義する。
第14回	グローバル化とインドの経済自由化、パキスタンの貧困削減について講義する。
第15回	バングラデッシュの社会と経済について講義する。
第16回	筆記試験

**到達目標**

受講生がアジア諸国の経済を分析する方法を学ぶことを支援することが、本授業の狙いである。日本企業における「開発は日本、生産はアジア」という一元的なグローバル戦略の変化について、受講生に知ってもらうことを目標としている。

**履修上の注意**

1. 講義内容の変更等授業の重要事項が第1回目に説明される。単位認定にかかわるので必ず第1回目の授業に出席すること。
2. やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをすること。

**予習・復習**

予習：授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と新聞・WEBサイトのアジア諸国に関する記事をよく読むこと。

復習：配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

**評価方法**

期末レポート提出で80%、受講態度20%。

**テキスト**

- ・教科書名：『アジア経済読本』（第4版）
- ・著者名：渡辺利夫【編】
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出版年（ISBN）：2009年（9784492100226）